



2007

No. 4

The Natural Science Publishers' Association of Japan

自然科学書協会会報

発行人・本郷 允彦

編集・広報委員会

発行・2007年11月9日

社団法人 自然科学書協会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-101 文化産業信用組合内 TEL03-3292-8281

URL : //www.nspa.or.jp

● 新理事長抱負

今後の社団法人としてのあり方

理事長 本郷 允彦

このたび7月19日に行われました定時総会の役員改選において、前任の志村理事長より理事長の重責を引き継ぐことになりました。この上は協会の発展のために微力ではありますが全力で尽くす所存です。協会を取り巻く環境はまだ山積する諸問題を抱えています、会員各位の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

協会も昨年60周年を迎え、これから社団法人としてのあり方が問われることになってきました。今般の公益法人の制度改革にあたり長年取り組んできた協会の定款変更は、この9月20日に文部科学省の認可を受けることができました。今後はそれに沿った諸規則の改定が必要となり、その後には次期役員改選時に、役員の数、その構成についての検討が迫られています。新しく選任された役員の皆様と検討を進めると共に、新しい理事会のあり方などを皆様のご意見も含めて進めていきたいと考えています。

また、公益性のある社団法人としては協会に即した諸行事を、会員ならびに会員外の皆様にもアピールしていかなければなりません。それらが今後の公益法人制度改革の中で、「公益社団法人」「一般社団法人」に認可される要素の一つとなってきます。その一つとして現在の情報システム委員会を発展的に分割し一部を総務委員会に移し、情報システム委



員会の名称を研修委員会（仮称）に変更、会員各社および会員外の皆様にも参加ができるIT関連も含む研修会、講演会に発展させていきたいと思っています。

現在、一般経済がそこそこ拡大しているにもかかわらず、当業界は低迷が続いています。どうしたら理学書・工学書・農学書・医学書・家政学書の売上が伸張するのか当協会でも議論を進めるべきでありましょう。

この他にも解決しなければならない問題は多岐にわたり、著作・著作権委員会の「複写における不合理な権利拡大の阻止」「著作権知識の普及」など、委員会が抱える問題の解決に邁進していきます。

広報委員会には、会報による各方面に対しての情報公開および活動の推進状況の報告が求められてきます。

ブックフェアへの協力展示については、そのあり方の検討を含め販売・出展委員会で再度検討を進め、協会としての協力体制を確立したいと考えます。

最後に大きな問題として消費税の問題があ

ります。協会としても、軽減税率の問題も含め政府税調の動きを見極めながら対応を考えたいと思います。

会員各位におかれましては、協会活動に対し今後ともご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

全員参加の活動を！

専務理事 筑紫 恒男

本郷理事長のご指名により、このほど歴史ある当協会の専務理事を務めることとなりました。微力ではありますが、当協会の発展に力を尽くす所存です。専務理事の役割は、会長を補佐し会員の状況を把握し、もって会の発展に尽力することと心得ております。会員の皆様の協力なくして、会の運営は成り立ちません。無事任務がまっとうできますよう、ご協力よろしくお願いいたします。

本協会は、72社の会員社によって構成されています。そのうち役員を務めているところが22社、専門委員を登録しているところが52社（役員社を含む）あります。総会・会員集会の出席社は、毎回ほぼ50社弱、TIBF（東京国際ブックフェア）に参加しているところは本年64社です。いずれにも参加していない会員社があるわけで、このことは大変残念に思います。

本協会は定款にもあるとおり、「会員の信頼と協力によって」「自然科学及びその応用の進歩向上に寄与する」ことを目的とし、会員は「法人の目的達成のために協力しなければならない」とされています。

本協会の活動に参加されていない会員社は、個別の事情があることはと思いますが、是非前向きに参加を検討していただけますようお願いいたします。同時に、本協会の活動に全員が参加できることを目指したいと考えています。

新定款が文部科学大臣より認可されたことを受け、この2年間は組織の見直し、公益性のある活動を追求していかなければなりません。

ん。それに加え、著作権・複写権問題、消費税問題、出版物電子化、売上の確保・増加への対応と、種々の問題が山積しています。これらの状況を踏まえ、自然科学系の専門書出版社の団体として何ができるのか、何をしなければならないか、独自の視点をもって活動を探っていきたいと考えています。

● 北京国際ブックフェア印象記

変貌と活気の中国

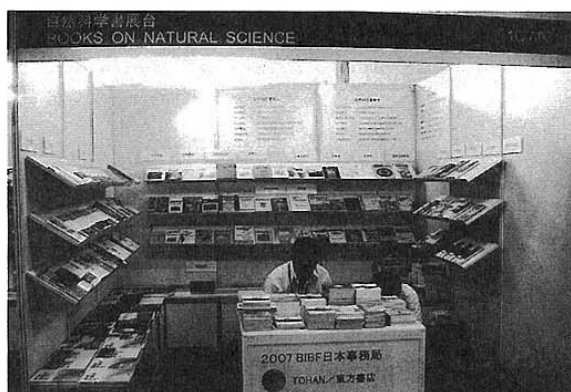
技報堂出版 長 滋彦

五輪を前に大きく変貌を続ける北京。その地で8月30日から9月3日まで中国国際展覽センターを会場に北京国際ブックフェア（BIBF）が開催された。日本事務局が発表したデータによると、世界59の国と地域から合計1,811社の出展があり、日本からも149社が出展した。会場面積34,000平米、著作権取引数13,742件、入場者230,000人といずれも前年度を上回る規模となり、経済成長を続ける中国への期待度が衰えていない結果となった。

会場入り口付近には巨大なテントやバルーン、レッドカーペットが敷かれ、入場者の目を楽しませる。会場内は中国ブースと海外ブースに大きく分かれており、中国からの出展企業はいかにも中国とわかる原色を基調としたブースが多く、まさに中華街のイメージとい



会場外観



自然科学書ブース

えようか。地元の利もあるが、派手なブース展開と威勢の良さに入場者は圧倒されるばかりである。海外出展社に目を移そう。中では今年のテーマ国ドイツのブースが特に活気があった。ゲーテンベルクが開発した印刷機で行われる実演は、多くの人の注目を集めていた。また、マグロウヒルなどTIBF（東京国際ブックフェア）に出展していない欧米出版社の出展も多く見受けられた。TIBFとBIBFの開催期が2ヵ月弱しか変わらないため、距離の遠い欧米の出展社にすれば、人口が多く、より可能性のある中国に力を入れるのは必然であろうが、我々日本人にとってはやはり残念なことである。

なお、来年のBIBFは北京五輪終了後の9月3日から7日まで同所で行われる。

滞在中、市内最大級の王府井書店を訪れた。まず気づくのはどのフロアにも人が溢れていること。ここまで活気のある書店はかつて体験したことがない。時間帯を変えて数度訪れたがいずれも大盛況である。買い求める人はもちろん、立ち読みする人、通路で座り読みをする人、ノートに模写する人、何でも有りである。マナーはさておき、知識向上に対する努力が凄い。こうした努力が今日の成長を支えているのであろう。日本もこれだけの活気が戻ればと望まざにはいられなかった。その後、市内の商店や書店を覗いたが、噂に違わぬコピー商品や海賊版の多さに閉口する。帰国時の空港免税店にはプレミアム焼酎「百年の孤独」が安価で並んでいた。思わず手を伸



日本ブース

ばすとそこには「百年孤独」との文字が。オフィシャルな場にも忍び寄るコピー商品。やはり中国恐るべしである。

専門委員会活動の抱負

● 総務委員会

総務委員長を仰せつかった飯塚です。2期目もよろしく願いいたします。

昨年60周年を迎えた歴史ある当協会の総務委員長の任には甚だ力不足であり、今後に至らない場面が多々あるかと思いますが、ご理解の上、当協会の運営にご協力賜りますようお願い申し上げます。

さて、今回は文部科学省より当協会の新定款が承認されたことを受け、広報委員会と協力し、この新定款を含めた“自然科学書協会概要”を制作し会員の皆様にお届けする予定です。

合わせて当協会には、会員規定をはじめ、委員会規定、顧問・相談役規定など様々な規定があり、その中には見直しが必要なもの、あるいは、過去に改定されたまま周知されていない可能性のあるものもあります。したがって、これら諸規定を現状に照らし、協会運営に支障なきよう整備したいと考えております。

また、前期まで情報システム委員会が管理・運営を担当しておりました当協会ホームページですが、当期からは総務委員会が担当することになりました。まずは現行ホームページの管理・運営方法などを確認した上で、新たな活用方法の検討を含め、電子メディアのメリットを活かしつつ、協会からの情報発信に役立てたいと思います。

最後になりましたが、今年も年末会員集会を12月5日に東京會館で開催いたします。ご多用の時期ですが、お誘い合わせの上、ご参加賜りますようお願いいたします。

(委員長 飯塚 尚彦)

● 著作・出版権委員会

著作・出版権委員会の基本的な役割が、「出版者の権利の擁護と拡大」および「著作権知識の普及」にあることは、これからも変わらないと思います。そしてすでに今期の行動計画としては、以下の4つを掲げています。

1. 複写における不合理な権利制限拡大の阻止
2. 集中的権利処理機構を日本複写権センター(JRRC)へ一本化する問題の検討
3. 転載に関する会員社相互の意思統一
4. 会員社における著作権知識の普及

1、2については、これまでの流れに沿って進むことになると思いますし、3については、すでに先期の委員会で案を作るところまで進んでいますので、この期のうちにそれをもとに具体案を策定するところまで進められればと考えています。

4に関わっては様々なことが考えられますが、会員社の皆様に役立つ活動ができればいいなと思っています。すでにある方から、自然科学書にふさわしい出版契約書の雛形を作ってほしい、という希望が寄せられています。このような具体的な声をぜひお寄せください。それを新しい委員会で議論して、やるべき課題を決めていきたいと存じます。

著作権をめぐるのは、これからも流動的な状況が続くそうです。時代の流れを的確に読みながら出版者の利益を擁護するために、地道な活動とともに臨機応変な活動をしてまいり所存ですので、何卒よろしく願い申し上げます。
(委員長 宮部 信明)

● 国際委員会

このたび委員長を拝命しました。当委員会は、まだ方針の決定を行っておりません。留任された南條常務理事や副委員長の金原理事、そして新任副委員長である中村理事、ならびに当期委員の方々とも話し合い、必要な事項について活動していきたいと考えています。

(委員長 藤実 彰一)

● 販売・出展委員会

当委員会の年間活動のうちで最も大きなものは、東京国際ブックフェアです。来年の「第15回東京国際ブックフェア(TIBF2008)」は、2008年7月10日(木)～13日(日)の日程で東京ビッグサイト西ホールで開催されます。今年とほぼ同様の規模による出展参加を計画しています。

全面的な更新をはかった展示ディスプレイは、余り大きな問題点もなくこれまでの長所を生かした様式が好感をもって迎えられているといつてよいでしょう。何といつても、日本の出版界が分野や専門を問わず一堂に会する数少ない機会でもあり、もう少し大切にしたいものです。

主催者のリードエグジビジョンジャパン株式会社の発

表によれば参加者の人数は回を追って増加しており、またその顔ぶれをみると本の専門家といえる人達が増加しています。今年に来場者の業種別内訳では、図書館・大学・学校関係者が全入場者の7.6% (実数で4,266名) とかなりのウェイト占めていました。当協会の出版活動をアピールし、図書館関係者の発注意欲を高めることに役立ってほしいものです。また、海外からの来場者が2.5% (実数で1,422名) であることも注目に値します。これまでの継続的な課題である著作権の照会や取引が、より活発に行われるよう事前の告知を含む積極策についても何らかの取り組みを行いたいと思います。その一つの具体的な視点として、2007年から始まった「著作権取引支援システム」は、著作権を売り込みたい書籍の画像を含めて1社4点(出版物)までTIBFホームページ上に情報提供が可能であり、原則として出版社のブースで著作権の商談を行うことになっています。提供された情報をもとに興味ある海外の出版社がe-mailでアポイントをとるのが、このシステムの仕組みの概要です。こういった方法の活用も考えられてもよいでしょう。

担当役員の入れ替わりとともに新委員の参加を得たこの機会に、当協会の知名度を高める新鮮なアプローチを繰り広げるよう十分な議論と模索を行いたいと考えています。
(委員長 平田 直)

● 情報システム委員会

情報システム委員会は従前、新出版ネットワークや電子出版の可能性を追求し、加盟出版社全体の知識・技術の向上をはかるとともに、協会ウェブサイトの更新を中心に、協会の情報インフラ整備を基本とする活動をしてきました。したがって会員各社からの委員会登録メンバーも、システム構築関係の方々から編集・営業を担当する方々まで、幅広いものとなっています。

しかしながら第57期からは、ウェブサイトの維持・更新については、総務委員会がその実務を担当することとなりました。永きにわたりウェブサイトに関連する小委員会の委員長をご担当くださった森北出版の小林さんをはじめ、いろいろとご尽力いただいた委員の方々に感謝するとともに、今後とも引き続きご協力をいただきたく存じます。

このことは情報システム委員会を、より「研修」に特化した委員会へと発展させようという、協会の総合的判断によるものです。会員社にとってプラスとなるような研修会を企画することは当然として、その「研修」が協会内部に留まることなく、社団法人としての協会の「公益性」を社会にアピールするようなイベントの開催が、新たに追求・開拓すべきこととして委員会に要請されています。この2つの方向の「研修」に向けて、委員長として努力していきたいと思います。会員社・委員のご助力を賜りますよう、お願い申し上げます。
(委員長 山口 雅己)

● 広報委員会

このたび、宮部前委員長の後任として、委員長の役務を拝命しました。

全く委員経験もなく、委員長として務まるかどうか正直とまどっております。そういう不安の中でのスタートとなりますが、幸い、副委員長に森田氏と永年委員をされてこられた新谷氏が就任され、また委員の方々も引き続きいてやってくださる方が多く、さらに強力な新メンバーも加わり、新米の委員長を支えてくださることと心強く感じております。

さて、当委員会は会報の発行を第一としていますが、できる限り協会の重要な活動報告をスピーディで的確に会員社の皆様にお伝えするために、年4回(1、4、7、10月)の発行は不可欠であり、また、「会員各社に役立つ情報を提供する」そして「社会に向かって協会の存在をアピールする」を目指す、という従来からの方針を引継ぎたいと思います。

協会と関係の深い学会の先生による本に関わるエッセイ、我々の出版物を支えてくれている流通関連の方による売れる本作りへの提案や提言、また、理事会に諮らせていただいてからになります。理事会報告も掲載できればと思います。また、広く社会に向かって協会の存在をアピールするために、会報の送付先を見直すことも必要かと思ひます。

その他の具体策につきましても、委員会でできる限り広く委員の皆さんの意見を伺いながら、新しい試みがあれば積極的に取り入れていき、会員の皆様から「読んで面白く・役に立つ」会報の発行を目指したいと思います。

(委員長 曾根 良介)

第57/第58期役員 (*: 新任)

〈理事長〉	本郷 允彦 (南江堂*)
〈専務理事〉	筑紫 恒男 (建帛社*)
〈常務理事〉	南條 光章 (共立出版)
	後藤 武 (彰国社*)
	山本 格 (培風館)
	及川 清 (養賢堂*)
〈理事〉	朝倉 邦造 (朝倉書店)
	金原 優 (医学書院)
	大畑 秀穂 (医歯薬出版*)
	宮部 信明 (岩波書店)
	佐藤 政次 (オーム社)
	曾根 良介 (化学同人)
	新谷 滋記 (工業調査会*)
	牛来 辰巳 (コロナ社)
	飯塚 尚彦 (産業図書)
	藤実 彰一 (診断と治療社)
	山口 雅己 (東京大学出版会)
	平田 直 (中山書店)

	中村 俊司 (丸善*)
	森田 猛 (緑書房*)
〈監事〉	岡田 吉弘 (海文堂出版)
	柴山 斐呂子 (理工図書*)
	大谷 健美 (文化産業信用組合)
〈顧問〉	志村 幸雄 (工業調査会*)
〈相談役〉	長 祥隆 (技報堂出版*)
	森北 肇 (森北出版*)

第57期/第58期専門委員会委員

● 総務委員会

〈担当常務理事〉	南條 光章 (共立出版)
〈委員長〉	飯塚 尚彦 (産業図書)
〈副委員長〉	森田 猛 (緑書房)
〈委員〉	佐藤 弘 (相模書房)

● 著作・出版権委員会

〈担当常務理事〉	及川 清 (養賢堂)
〈委員長〉	宮部 信明 (岩波書店)
〈副委員長〉	大畑 秀穂 (医歯薬出版)
	岡田 吉弘 (海文堂出版)
〈委員〉	川口達也 (朝倉書店)・金原 優 (医学書院)・山崎清徳 (医学書院)・子安孝夫 (医歯薬出版)・鈴木泰彦 (井上書院)・吾妻直記 (オーム社)・山口啓子 (学窓社)・横田穂波 (共立出版)・太田 博 (杏林書院)・柴田勝祐 (金芳堂)・根津龍平 (建帛社)・大島雅志 (工業調査会)・山口重和 (講談社サイエンティフィック)・牛来真也 (コロナ社)・御園生晴彦 (サイエンス社)・武長義雄 (実教出版)・小野達也 (裳華房)・渡辺嘉之 (総合医学社)・橋元博樹 (東京大学出版会)・横井 信 (南江堂)・天野慶悟 (日刊工業新聞社)・竹内福次 (博友社)・福田久子 (北隆館)・角谷裕通 (北隆館)・羽貝雅之 (緑書房)・森北博巳 (森北出版)・三浦信幸 (養賢堂)

● 国際委員会

〈担当常務理事〉	南條 光章 (共立出版)
〈委員長〉	藤実 彰一 (診断と治療社)
〈副委員長〉	金原 優 (医学書院)
	中村 俊司 (丸善)
〈委員〉	佐藤素美 (オーム社)・大石 卓 (農山漁村文化協会)・正路 修 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)

● 販売・出展委員会

〈担当常務理事〉	後藤 武 (彰国社)
〈委員長〉	平田 直 (中山書店)
〈副委員長〉	大畑 秀穂 (医歯薬出版)
	中村 俊司 (丸善)
〈委員〉	加藤大助 (朝倉書店)・上原達史 (医学書院)・小川文一 (医歯薬出版)・高田光明 (オーム社)・吉原寿和 (化学同人)・石川省二 (金原出版)・加藤敏博 (共立出版)・長 範彦 (技報堂出版)・姫野尚之 (建帛社)・高城 献 (工業調査会)・秋浜直治 (コロ

ナ社)・清積庸介(シーエムシー出版)・丹野 豊(実教出版)・宮内耕次(裳華房)・小島祐二(彰国社)・洞澤健吾(誠文堂新光社)・加藤友昭(第一出版)・井上泰暢(電気書院)・諸星安紀(東海大学出版会)・西澤政幸(中山書店)・清水 豊(南江堂)・福田徹哉(農山漁村文化協会)・石田 聡(文永堂出版)・林 信徳(丸善)・三澤 岳(メジカルビュー)・西村直己(養賢堂)

● 情報システム委員会

<担当常務理事> 山本 格(培風館)
 <委員長> 山口 雅己(東京大学出版会)
 <副委員長> 新谷 滋記(工業調査会)
 柴山斐呂子(理工図書)
 <委員> 後藤 力(朝倉書店)・早坂和晃(医学書院)・高山一平(医歯薬出版)・渡辺孝一(井上書院)・山田貴史(化学同人)・筑紫和男(建帛社)・石井隆志(工業調査会)・木下敏孝(サイエンス社)・秀島功(三共出版)・鈴木正昭(産業図書)・大庭良弘(実教出版)・小林孝雄(昭晃堂)・青木 滋(中外医学社)・中村光志(電気書院)・宇野文博(同文書院)・馬場一嘉(日本工業出版)・留場俊明(農山漁村文化協会)・斉藤 淳(培風館)・石黒健次(緑書房)・小林巧次郎(森北出版)・谷内宏之(理工図書)

● 広報委員会

<担当常務理事> 山本 格(培風館)
 <委員長> 曾根 良介(化学同人)
 <副委員長> 新谷 滋記(工業調査会)
 森田 猛(緑書房)
 <委員> 朝倉誠造(朝倉書店)・安原 仁(家の光協会)・長 滋彦(技報堂出版)・牛来真也(コロナ社)・三宅恒太郎(彰国社)・田中久米四郎(電気書院)・柏原徹二(南江堂)

● 税制・再販流通特別委員会

<委員長> 本郷理事長
 <副委員長> 筑紫専務理事
 <委員> 山本常務理事 南條常務理事
 後藤常務理事 及川常務理事
 朝倉理事 佐藤理事
 牛来理事 志村顧問

● 著作・著作権特別委員会

<委員長> 本郷理事長
 <副委員長> 筑紫専務理事
 <委員> 山本常務理事 南條常務理事
 後藤常務理事 及川常務理事
 朝倉理事 金原理事
 佐藤理事 牛来理事

● 出版者著作権協議会

及川常務理事 宮部理事
 岡田監事

年末会員集会開催のお知らせ

当協会恒例の年末会員集会が12月5日(水)18時より、東京會館(千代田区)11階ゴールドルームで開催されます。取次・関連業界の方々が多数出席されますので、相互交流を深める夕べとして、会員代表者、各専門委員会委員の皆様の参加をお願いします(会費は1社1万5,000円)。

【事務局より】

- ◆ 「出版・印刷人の集い」
 日時：2007年11月15日(木) 16時30分より
 場所：日本出版クラブ会館
- ◆ 年末会員集会
 日時：2007年12月5日(水) 18時より
 場所：東京會館
- ◆ 新年会員集会
 日時：2008年1月17日(木) 12時より
 場所：日本出版クラブ会館
- ◆ 住所変更

○ 森北出版株式会社

<旧住所> 〒102-0071 東京都千代田区富士見1-4-11
 <新住所> 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-2
 (高橋ビル3階)

※Tel・FAX変更なし

○ 株式会社工業調査会(2007年11月26日(月)より業務開始)

<旧住所> 〒113-8466 東京都文京区本郷2-14-7
 <新住所> 〒113-8466 東京都文京区向丘1-13-1
 (KRDビル)

※Tel・FAX変更なし

編集後記

フランクフルトブックフェアで、出版界は日本語という要因だけでなく、何かとむずかしい状況にきていたと思います。象徴的なのがブースの大きさです。中国、韓国ブースは非常に大きいものに対して、日本ブースは小さくて両国に圧倒されていました。日本の出版物が海外、特にアジアの出版社から強く求められていることも確かで、たとえば韓国の出版物の3分の1は日本の小説の翻訳であるし、フェア期間中に日本の出版物の盗難が多かったことからそれがいえます。最近是我々自然科学書協会の出版物も、絵や写真、漫画で解説されたものを少なからず見受けませんが、一般書ではそういったものの出展が多く、翻訳部分の余り必要のないものが要望されているように見受けられました。他にも、経済発展の著しいロシアやインドの出版社が活発で、日本のバブル時と違って出版界も経済発展を享受しているその様子は、出版物に対する考え方の違いを感じました。(I. Y)

第57期/第58期広報委員

<担当常務理事> 山本 格(培風館)
 <委員長> 曾根 良介(化学同人)
 <副委員長> 新谷 滋記(工業調査会)
 森田 猛(緑書房)
 <委員> 朝倉誠造(朝倉書店)・安原 仁(家の光協会)・長 滋彦(技報堂出版)・牛来真也(コロナ社)・三宅恒太郎(彰国社)・田中久米四郎(電気書院)・柏原徹二(南江堂)